

バスケット語テキスト ～言語接触と言語変容～*

乾 秀行

(山口大学)

inui@yamaguchi-u.ac.jp

0 はじめに

本稿は、エチオピア西南部で話されている北オモ系少数言語であるバスケット語 (Fleming 1976 参照) の対話テキストを分析することを通して、言語の動態面を明らかにすることを目的とする。

エチオピアには現在 80 を越える言語が話されているけれども、少数言語は近隣言語との共存を常としてきた。とりわけエチオピア西南部は少数言語が密集して話されている地域であり、地域有力言語があれば少数言語話者は必然的に二言語併用をしていたと思われる。ところで最近は、今までは移動するのが困難であった辺境地域であっても、交通網が急速に整備されつつあり、以前より容易に人の移動が可能となってきた。またエチオピアの作業語であるアムハラ語も政情の安定に伴い、学校教育の普及、行政や商業活動での利用機会の増大など、日常生活で必要となる場面が増え、エチオピア全土への浸透が加速度的に進んでいる。結果として少数言語話者は、弱小であればあるほどこれまで以上に日常的に二言語併用あるいは多言語併用を余儀なくされていることになる。また都市部への移住や他民族との婚姻等により、言語環境が大きく変わった母語話者の場合、次世代への言語継承をせず、言語交替をすることも稀ではない。

このようにエチオピアの少数言語が置かれている状況は、刻一刻変化してきており、その将来は必ずしも安泰ではない。そこで本稿では筆者がこれまで調査を行ってきた少数言語の中で、基礎的な文法・語彙の調査を終えたバスケット

*本稿のデータは、2014 年 2 月にエチオピア連邦民主共和国内のバスケット (Basketo) で収集したものである。長年筆者の調査に協力していただいているインフォーマントのフィクレ氏にはここに感謝の意を表したい。なお本稿は、平成 22～25 年度科学研究費基盤研究 (B) 「変容するエチオピア諸言語の静態と動態に関する総合的研究, ならびにデータベース構築」代表柘植洋一 (金沢大学) (課題番号 22401046) による研究成果の一部である。

語を例に、現在どのような言語変容が始まっているか、つまり言語の動態面を観察するため、小学校に通う若年層の対話を収集し、その言語特徴を分析する。エチオピアにおける少数言語が将来も生き続けるために、自らの言語構造にどのような変容がもたらされているのかを明らかにしたい。

1 研究方法

これまで乾(2002, 2005, 2006, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012)では、バスケット語の基礎語彙および文法構造を明らかにしてきた。語彙面では、バスケット語に元々存在しなかった語彙の多くがアムハラ語から流入する中で、基礎語彙においても近隣有力言語の語彙がバスケット語母語話者によって共有され、時には利用されていた。一方、文法面では、アムハラ語からバスケット語の動詞を容易に作り出す動詞活用の形態法が確立されていたけれども、特に文法構造を大きく変えるような特徴が入り込んでいる事実を見つけ出せなかった。

そこで本稿では、これまでの基礎語彙や例文単位の記述調査では拾いきれない言語の動態面の研究に焦点を当てるため、対話テキストを収集して、アムハラ語や近隣有力言語がバスケット語の中にどのように現れているかを観察・分析することを通して、その影響を考察する。

今回収集したデータは、バスケット語を母語とする少年4名が3つのテーマに関して自由に話している場面をビデオカメラ (SONY:HDR-PJ630) で撮影したものである。一つのテーマあたり約5分程度撮影し、ビデオのプロジェクター機能を使って再生し、インフォーマントのフィクレ氏の協力のもと、文字おこし及びグロス作成を行った。

2 バスケット語の文字表記

本稿で用いるバスケット語の単語の文字表記と音素との対応関係は以下のとおりである。

母音

i (/i/), **e** (/e/), **a** (/a/), **o** (/o/), **u** (/u/)

ii (/i:/), **ee** (/e:/), **aa** (/a:/), **oo** (/o:/), **uu** (/u:/)

子音

p (/p/), **t** (/t/), **ts** (/ts/), **ch** (/tʃ/), **k** (/k/), **'** (/ʔ/)

b (/b~β/), **d** (/d/), **dz** (/dʒ/), **dj** (/dʒ/), **g** (/g/)

p' (/p'/), **t'** (/t'/), **ts'** (/ts'/), **ch'** (/tʃ'/), **k'** (/k'/)

bh (/b/), **dh** (/d/)

f (/f~φ/), **s** (/s/), **sh** (/ʃ/), **h** (/h/),

z (/z/), **H** (/fi/)

m (/m/), **n** (/n/), **r** (/r/), **l** (/l/), **w** (/w/), **y** (/j/)

3 テキスト

以下のテキストは、小学校¹に通う4人の少年が「学校」と「職業」と「食べ物」の3つのテーマについて語っている場面である²。少年たちにはバスケット語で会話するようお願いした。しかし実際には、ところどころエチオピアの作業語であるアムハラ語や近隣言語（ゴファ語系）³が現れた。太字で書かれている所がテキストである。それぞれの文には、必要に応じて、言語変容に関わる文法と文脈理解のための（説明）を加えた⁴。したがって形態素について詳しい説明を省略したところもある。たとえば、表記が煩雑になるのを避けるため、動詞人称標示を省略した⁵。

3.1 学校

A: ta timirtaal lukk-i-yey-ine.

1SG 学校 行く-CNV-くる-PF
「ぼく学校行ってきたよ。」

（説明）1人称主格は *taan-i* であるが、話題化されていない会話では短縮形⁶の *ta* (2人称主格は *ne*) が使われる。*aal* は「家」の意。*lukkire* と *yeyire* は、それぞれ「行く」と「来る」という動詞であるが、複合動詞化（両者を *-i* で接続）することで、後項の *yeyire* は文法化して移動を表している。

¹primary school を指し、グレード 1~8 までである。教師はバスケット語の授業以外はアムハラ語で授業を行っている。なおグレード 9~12 では、英語で授業が行われる。

²初めの「学校」と、残り2つの「職業」および「食べ物」は異なる集団で収集した。後者の集団の方が若干年齢層が高い。

³バスケット語が話されている周辺には、ウォライタ語、ガンモ語、ゴファ語、マロ語など北オモ系諸言語が存在するが、それらの言語間の言語特徴の類似性に比べて、バスケット語はかなり異なった言語特徴を有している。

⁴本稿の例文解釈で用いる文法用語の一覧は次の通りである。NOM (主格:nominative)、ACC (対格:accusative)、GEN (属格:genitive)、DAT (与格:dative)、ABL (奪格:ablative)、LOC (所格:locative)、INSTR (具格:instrumental)、ESS (様態:essive)、POSS (所有:possession)、DEF (定:definite)、SG (単数:singular)、PL (複数:plural)、1 (1人称:first person)、2 (2人称:second person)、3 (3人称:third person)、PASS (受身:passive)、CAUS (使役:causative)、PF (完了相:perfective)、IMPF (未完了相:imperfective)、COND (条件:conditional)、INF (不定詞:infinitive)、REL (関係節:relative)、INTRO (疑問:interrogative)、AFF (肯定:affirmative)、NEG (否定:negative)、IMPER (命令:imperative)、COORD (等位接続:coordination)、CNV (副動詞:converb)、ACNV (逆-副動詞:anti-converb)、INT (意思:Intentional)、CONT (対比:contrast)、TOP (話題:topic)、EXCL (感嘆:exclamatory)、ASS (断定:assertive)、CONF (確認:confirmation)。

⁵動詞人称標示は、語形融合が進んでおり、人称による違いが完了では全くなり、また未完了でも多くの場合と同じ語形になる。殆どの人称で、完了は {-ide/-ine}、未完了は {-ire} になる。説明の際には、未完了形を基本形として用いる。

⁶本稿では異形態として形態的に文法機能を維持しつつも、基本形より短くなっているものを「短縮形」、会話体において語末の音が脱落するものを「音脱落」と呼び分けることにする。

B: taan-i lukk-akkaye.

1SG-NOM 行く -NEG.PF

「ぼくは行かなかった。」

A: taan-i lukk-a, derej-i sisk-i-yey-ine.

1SG-NOM 行く -COORD レベル-ACC 聞く -CNV-くる -PF

「ぼくは（学校に）行って、（自分の）学習到達レベルを聞いてきた。」

（説明）等位接続形は *lukk-ara* であるが、*ra* が音脱落したため、文法機能が不明瞭になっている。このような語末の音脱落が以下の例でも多く見られる。

B: ta giab sisk-anda, lukk-ara.

1SG 明日 聞く -INT 行く -COORD

「ぼく明日（自分のレベルを）聞くつもりだ、（学校に）行って。」

（説明）*giabo* 「明日」の語末母音 *o* が音脱落している。動詞は「*~lukkara, ~siskanda*」の順が自然であるが、日常会話では逆になることも多い。（例）*taani giab Addis Ababa lukkanda, elli dendara.* 「私は明日アジスアベバに行くつもりだ、早く起きて。」

A: ta sisk-ine. bakk'a. taan-i hamus lukk-anda.

1SG 聞く -PF 十分だ 1SG-NOM 木曜日 行く -INT

「ぼくは聞いたよ！十分だ（今行かなくてもよい）。ぼくは木曜日に（学校に）行くつもりだ。」

（説明）バスケット語で *atto* というべきところにアムハラ語の *bäqqa* が現れている。*atto* (Amh. *yəqər alä* 「許す」の意) はここでは「十分だ」の意。なおバスケット語の「十分だ」は *gido* (< *gidire* 「足りる」) である。

B: ne ant lukk-ir-a?

2SG いつ 行く -IMPF-INTRO

「おまえ、いつ（学校に）行くんだ？」

C: Hat ta lukk-anda.

今 1SG 行く -INT

「今から（学校に）行くつもりだ。」

B: ne dereji sint kesk-in-a?

2SG.GEN レベル いくつ 上がる -PF-INTRO

「おまえのレベルは何に上がった？」

(説明) 疑問詞「いくつ」にアムハラ語の *sənt* が使われている。バスケット語であれば *aafin(ittsi)* である。

C: dereji and kesk-ine.

レベル 1 上がる-PF
「レベルは1に上がった。」

(説明) 数詞「1」にアムハラ語の *and* が使われている。バスケット語であれば *fettan* である。学習到達レベルは上から第1、第2、第3で示すので、正確には *andañña(fettittsi)* 「第1」となる。なお、「第1」レベルを取るのは難しく、この場面では少年Cが冗談で言っている。

B: wuu, ne a erar-dor-a?

感嘆詞 2SG なぜ 知る-EXCL-INTRO
「おいおい、おまえはなぜ(自分のレベルを)知っているんだ。」

(説明) *wuu* はアムハラ語の *wäyne* に相当する感嘆詞である。*a* は *abz* の短縮形で、ここでは「なぜ」の意で使われている。*erardora* は *erire* 「知る」に驚きの意を表す {-*dor*} が加わった疑問形である。

C: wu'a, ne lukk-i-bekk'a-bas-a? timirtaal-i.

感嘆詞 2SG 行く-CNV-見る-NEG-INTRO 学校-LOC
「おや、おまえが行って、(ぼくのレベルを)見ないのか、学校で。」

(説明) *wu'a* はアムハラ語の *ärä* に相当する感嘆詞である。*lukk-i-bekk'ire* は、同時に起こるイベント構造である。しかしこの文脈では学校に行った後「(レベルを)見る」という動作があるので、等位接続形の *lukk-ara* にした方が文法的に相応しい。*timirtaal-i* は所格 {-*itti*} が付いた *timirtaal-itti* の短縮形。

B: k'am k'am atsanna'-ar-a?

夜 夜 勉強する-IMPF-INTRO
「毎晩勉強しているのか？」

C: aa, atsanna'-are.

AFF 勉強する-IMPF
「うん、勉強しているよ。」

(説明) *aa* は「はい」、「いいえ」は *wa'a* である。文全体の内容で肯定であれば *aa*、否定であれば *wa'a* である。(例) *lukkabasa?* 「行かないの？」 *wa'a, lukkabase.* 「いいえ、行かない。」 *aa, lukkanda.* 「うん、行く。」

B: wozar gey-ir-a tsuuf-ad-i?

どう 言う-IMPf-INTRO テキスト-DEF-NOM
「どう言っているのだ? テキストは。」

(説明) テキストが解るのか尋ねている。基本語順は SOV であるけれども、疑問詞 wozar が文頭に来て、主語が文末に移動している。なお、バスケット語には疑問詞が必ず文頭に来なければならない制約はない。

C: tsuuf-ad-i amarinya inglizinya bari-sho.

テキスト-DEF-NOM アムハラ語 英語 一緒-ASS
「テキストは、アムハラ語と英語の両方だ (から解る)。」

(説明) 「アムハラ語」と「英語」の部分がアムハラ語である。バスケット語であれば amaritsi ki inglizitsi ki なので、等位接続詞 ki も落ちている。barisho は bara wodhe で「一緒だ」の意。(例) Fiqre, Hay yeyabe? 「フィクレ、こっちに来い。」 taani Hat Andennet barisho (bara wodhe). lukkabase. 「私は今アンデネットと一緒にいる。行けない。」 sho は断定を表す。(例) astamarisho 「先生だ。」、 taani kamooli giddisho. 「私は車の中だ。」

B: taan-ana aradda'is-abe tamar-ino-da.

1SG-ACC 説明する-INPER 学ぶ-REL.PF-DEF
「ぼくに説明しろよ、(テキストから) 学んだことを。」

C: yeddh-abe. ta-bar lukk-and-iko.

歩く-INPER 1SG-INSTR 行く-INF-COND.IMPf
「歩いて行こう。ぼくと一緒に (学校に) 行くなら。」

B: Haadi ne tamarar? ekki-niko.

これ 2SG 学ぶ-INTRO 得る-COND.PF
「これを (ここで) おまえ学べよ? (レベル 1 の実力を) 身につけたのなら。」

(説明) tamarara? の疑問を表す語末母音 a が音脱落している。条件節は、未完了が-iko、完了が-niko である。少年 C に実力を披露してくれと迫っている。

C: won atsanna'iza Haa-da! timirtaal gid-akka?

前に 勉強する-REL.IMPf これ 学校 足りる-NEG
「前にこれを勉強したこと (があるだろ)。学校じゃ足りないのか?」

(説明) atsanna'iza の-iza は未完了を表すので、「勉強していた」の意となる。所格が付いた timirtaal-i(tti) が文法的に正しい。gid-akka は gid-akka-ya の ya が音脱落した形で、単なる否定で疑問形になっていない。

B: ne in-apo k'am k'am atsanna'-a-r ekk-akka?

2SG それ-ABL 夜 夜 勉強する-IMPF-COORD 得る-NEG
 「おまえは毎晩勉強して、テキストを身につけないのか？」

(説明) ini は物を指す「それ」の意。atsanna'-ar は等位接続形で、語末母音 a が音脱落している。ekkakka は ekkakkaya の疑問を表す ya が音脱落している。

C: atsanna'-are in-apo.

勉強する それ-ABL
 「それ (テキスト) で勉強するよ。」

B: yebet sira oots-ar-ka?!

宿題 する-IMPF-CONF
 「宿題するだろ?!」

(説明) 「宿題」はアムハラ語 yäbet sära からの借用語で、属格の yä を含んでいる。{-ka} は相手がすることを確信している場合に用いる念押しの確認表現。(例) burtukani wodha? 「オレンジはあるか?」 / burtukani wodhka? 「オレンジはあるだろ?!」、Sinde, t'ibs muyarka? 「スインデ、ティブスを食べるだろ?!」 / aa, muyanda. 「ああ、食べるよ。」

C: yebet sira ekk-i ta oots-are.

宿題 受け取る-CNV 1SG する-IMPF
 「(先生から) 宿題を受け取って、するよ。」

(説明) 2つのイベントの時間的継起なので、ekki よりも ekkara の方が文法的に相応しい。

A: taan-i taa-ko sisk-i-yey-ine.

1SG-NOM 1SG-POSS 聞く-CNV-くる-PF
 「ぼくは自分の (レベル) を聞いてきた。」

D: ne nee-ko aafin kesk-in-a?

2SG 2SG-POSS どのくらい 上げる-PF-INTRO
 「おまえはレベルをどのくらい上げた？」

A: taan-i hulet kesk-ine.

1SG-NOM 2に 上げる-PF
 「ぼくは2に上げた。」

(説明) 数詞「2」はアムハラ語の *hulätt* を用いている。バスケット語の「2」であれば *nam'i* となる。第2レベルのことなので、正確には *hulättañña* (*nam'ittsi* 「第2」) である。

D: hulet kesk-in-a?

2 上げる -PF-INTRO
「2に上げたのか？」

A: aa.

AFF
「うん。」

D: atsanna'-ar-a?

勉強する -IMPF-INTRO
「勉強しているのか？」

A: atsanna'-are. maata k'am k'am.

勉強する -IMPF 夜 夜
「勉強しているよ、毎晩。」

(説明) 最初にアムハラ語の *matä* を言った後、バスケット語の *k'am* に言い直している。

B: ne baab-ab ne aay-ab oots-ar-a?

2SG.GEN 父-DAT 2SG.GEN 母-DAT 働く -IMPF-INTRO
「(勉強ばかりしていて) 父さんや母さんのために働いている？」

(説明) 与格形は *-abo* であるが、語末母音 *o* が落ちた短縮形 *ab* も多用される。接続詞 *ki* を入れた形 *ne baababo ki ne aayabo ki* が文法的には正しい。)

B: ne-b baz wodh-a?

2SG-DAT もの ある -INTRO
「おまえにあれある？」

(説明) ここから話題が変わっている。*baz(a)* は話し手が不特定のものを指した表現である。)

A: programi.

プログラム
「プログラム。」

(説明) 「プログラム」とは、1週間に1回学習計画を提出する制度。

B: aa,

AFF
「そう。」

A: tsaaf-int-akkay.

書く -PASS-PF.NEG
「(まだプログラムは) 書かれていない。」

B: ant tsaaf-int-an-fen koy-ar-a?

いつ 書く -PASS-INF-ESS 欲する -IMPF-INTRO
「いつ書くんだい？」

(説明) 前文を受けて、文法的にはプログラムを主題にした受身形が引き続き使われている。

A: giab tsaaf-int-ir.

明日 書く -PASS-IMPF
「明日書く。」

(説明) 受身形である。koyare 「～たい」を用いれば、tsaafintanfen koyare となる。)

B: wuu, Hat Hattab kosshir doke giyab anta.

感嘆詞 今 今日 必要である 逆接 明日 いつ
「おい、今、今日 (プログラムが) 必要なのに、明日ってなんで？」

(説明) doke はアムハラ語のənji に相当して「にもかかわらず」の意。anta は「いつ」の意であるが、ここでは abzab 「なぜ」の意で使われている。

A: giab sanyi ta timirtaal lukk-iza-bo.

明日 月曜日 1SG 学校 行く -REL.IMPF-DAT
「次の月曜にぼく学校に行くから。」

(説明) giab 「明日」が「次」の意で用いられている。文法的には yeyiz sanyi 「来週の月曜」となる。

B: timirtaal lukkar baya?

学校 行く 疑問詞
「学校に行くのか？」

(説明) baya は疑問詞で、アムハラ語の wäy に相当する。(例) muyir baya? 「食べるのか？」 aa, muyire. 「うん、食べる。」

A: aa,

AFF

「うん。」

B: lukkar abz wot-ar-a?

行く 何 する-IMPF-INTRO

「行って何をする？」

(説明) wotire はアムハラ語の adärrägä と同じで、ここでは「する」の意で用いられている。

A: taa-ko takatattal-are.

1SG-POSS 従う-IMPF

「ぼくの (レベル) をがんばる。」

(説明) テキストに従って勉強するの意。バスケット語であれば kallire であるが、アムハラ語からの借用語 takatattalire の方を使っている。

B: takatattal-ino pish?

従う-REL.PF 後

「がんばった後は？」

(説明) pish は「後」を表す後置詞で、関係節に用いる完了形に付く。(例) taani gabi lukkino pish, misi muyine. 「私は市場に行った後、ランチを食べた。」

A: giyab taa-ko atsanna'-are.

明日 1SG-POSS 勉強する-IMPF

「次のぼくの (レベル) を勉強するよ。」

B: aal-i yee-r-a?

家-LOC 戻る-IMPF-INTRO

「家に戻るか？」

A: aa.

AFF

「うん。」

B: aal-i yee-r atsanna'-ar-a?

家-LOC 戻る-COORD 勉強する-IMPF-INTRO

「家に戻って勉強する？」

A: aa.

AFF

「うん。」

B: atsanna'-ino-po Hana oos ootsar baya?

勉強する-REL.PF-ABL 後 仕事 する 疑問詞

「勉強した後、仕事をするだろ？」

(説明) 関係節に用いる完了形に奪格が付いた形に Hana が続いて「した後」の意。アムハラ語の wädih に相当する。(例) taani muyinopo Hana timirtaal lukkanda. 「私は食べた後、学校に行くつもりだ。」

A: oots-ar.

働く-IMPF

「働く。」

B: oots-ar-ish?

働く-IMPF-INTRO

「働いてから？」

(説明) ish は、未完了に付いて、次の動作に対する疑問を表す。(例) lukkarish 「行ってから?」、muyarish 「食べてから?」

A: oots-ar ina-po k'am k'am atsanna'-ir.

働く-COORD それ-ABL 夜 夜 勉強する-IMPF

「働いて、それから夜に勉強する。」

(説明) 動詞はそれぞれ ootsara, atsanna'ire で、語末母音が音脱落している。

C: timirtaal-apo yey-i kaas mutta atsanna'i-bas-a?

学校-ABL 戻る-CNV 遊び だけ 勉強する-NEG-INTRO

「おまえは学校から戻っても、遊んでいるだけで勉強しないだろ。」

(説明) kaas は kaasire 「遊ぶ」の名詞化。

A: program-bar kaa-ir oots-ir atsanna'-ire.

プログラム-INSTR 遊ぶ-COORD 働く-COORD 勉強する-IMPF

「プログラムで遊んで、働いて、勉強するんだ。」

B: ina-po.

それ-ABL

「それから。」

A: ta ta derej-ada hamus sisk-anda. Hattabo.

1SG 1SG.GEN レベル-DEF 木曜日 聞く -INT 今日
「ぼくは、自分のレベル（を）木曜日に聞くつもりだ。今日？」

(説明) 少年 A は既に自分レベルを聞いてきているので、この文は文脈的に意味不明な表現である。

C: ta sanyi lukk-i, sisk-anda. sanyi guur lukk-anda.

私 月曜日 行く -CNV 聞く -INT 月曜日 朝 行く -INT
「ぼくは月曜に行って、(自分のレベルを) 聞くつもりだ。月曜朝に行くよ。」

(説明) 2つのイベントの時間的継起なので、lukkaraの方が文法的に相応しい。guurはマロ語などの近隣言語の「朝」で、バスケット語ではgeeshとなる。

A: zinaab lukk-in sanyi yee-bte gey-ine.

昨日 行く -ACNV 月曜日 来る -INPER 言う -PF
「昨日行ったら、(先生は) 月曜に来なさいと言った。」

(説明) lukk-inはconverbを作る-iに主語を交替させるnが付いたもので、次に異なる主語が来ることを示す。この場合前の主語が「私」で、後の主語は明示されていないけれども「先生」である。

B: ne dabtar mark eddh-is-in-a?

2SG ノート チェック 掴む -CAUS-PF-INTRO
「おまえはノートのチェックを(先生に)してもらったか？」

(説明) ノートのチェックは先生側からはeddhire「掴まえる」、生徒側からはeddhisire「掴まえさせる→掴まえてもらう」となり、文法的には使役形isが現れる。)

A: ta eddh-is-in, astamara wut'eeta soola-bda gey-ine.

私 掴まえる -CAUS-ACNV 先生 総点 話す -NEG 言う -PF
「ぼくはチェックしてもらったけど、先生は総点を言わないと言った。」

(説明) eddhisinのnは前の主語「私」から後の主語「先生」に変わったことを表す。)

B: ta eddh-is-akkaye, taa-ko dabtar woytso sol-i ekk-ine.

1SG 掴む -CAUS-NEG 1SG-POSS ノート すべて 泥棒 -NOM 取る -PF
「ぼくはチェックしてもらっていない。ぼくのノートを全部泥棒が取ったんだ。」

(説明)「泥棒」とは学校の誰かがノートを取ったりすることであるが、実際にはそのようなことが起きないから、この一連の泥棒話は子どもたちの作り話である。

A: art dabtar sol-i ekki-n, ta wong-akkaye.
 美術 ノート 泥棒-NOM 取る-ACNV 私 買う-NEG.PF
 「美術のノートを泥棒が取ったら、ぼくは（ノートを）買えなかったよ。」

B: astamar-i tamar-ants-ako dabtar mark eddh-ine.
 先生-NOM 学生-PL-POSS ノート チェック 掴む-PF
 「先生は（ぼく以外の）生徒たちのノートチェックをしたんだね。」

3.2 職業

A: ne timirt wurs-ara, wohan-abo abz maak'-and koy-ar-a?
 2SG 学業 終わる-接続 将来-DAT 何 なる-INF 欲する-IMPF-INTRO
 「おまえは学業が終わって、将来何になりたい？」

B: ta poolis maak'-and koy-are.
 1SG 警官 なる-INF 欲する-IMPF
 「ぼくは警官になりたい。」

A: poolis maak'-and koy-ar-a?
 警官 なる-INF 欲する-IMPF-INTRO
 「警官になりたいのか？」

B: aa.
 AFF
 「うん。」

A: poolis maak'-ara, Hat ne gad k'ayyar-int-i oots-and be
 警官 なる-COORD 今 2SG 村 替える-PASS-CNV 働く-INF CONT
asi gad oots-anda?
 人 村 働く-INT
 「警官になって、今の所、自分の村を移動させられて働くのか、他の村で働くのか？」

(説明) 警官は転勤が周期的にあり、いろいろな村を移動する。

B: ta gadda-r maak'-o asa gadda-r maak'-o woytsi taan-i
 1SG.GEN 村-も ある-CONT 人 村-も ある-CONT すべて 1SG-NOM

das gey-ire.

嬉しい 言う-IMPF

「ぼくの村であっても、別の村であってもどこでも、うれしい。」

(説明) das はアムハラ語の däss alä 「嬉しい」 から来ている。エチオピア言語圏の特徴として、バスケット語にも geyire 「言う」 を使った表現が多い。

(例) attogabe geyire 「謝る」、kach kach geyire 「ゆっくりである」、muyanda geyire 「食べたい」。

A: oots-and koy-ar-a?

働く-INF 欲する-IMPF-INTRO

「働きたいか？」

B: aa.

AFF

「うん。」

A: Getach-ish?

ゲタッチヨ-TOP

「ゲタッチヨは？」

(説明) -ish は話題標示のマーカである。mats'aafish? 「本は?」、Haadish. 「ここだ。」 / Sinde, timirtaal lukkabe. 「スインデ、学校に行け。」、taanish? 「僕は?」、neeni lukkappe. 「おまえは行くな。」

C: taana-r bakk'a poolis maak'-ino-po Hayd-ar maak'-o

1SG-も やっぱり 警官 なる-REL.PF-ABL ここ-も ある-CONT

woyd-ar maak'-o oots-and koy-are.

どこ-も ある-CONT 働く-INF 欲する-IMPF

「ぼくも、やっぱり警官になって、ここでもどこでも働きたい。」

(説明) taanar の r(i) は「も」の意。ここでもアムハラ語の bäqqa が現れている。maak'o の-o が2回続くのは、対比表現である。

A: oots-and koy-ar-a?

働く-INF 欲する-IMPF-INTRO

「働きたいのか？」

C: aa.

AFF

「うん。」

A: Samson, ne timirt tamari wurs-and be macch' ekka,
サムソン おまえ 学業 生徒 終わる-INF 対照 嫁 取る
gabari maak'-and koy-ar-a?

農夫 なる-INF 欲する-IMPF-INTRO

「サムソン、おまえは学校を終えたい、嫁を取りたい、それとも農夫になりたい？」

(説明) ekka は、ekkad be が文法的に正しい。

D: timirt wurs-and koy-are.

学校 終わる-INF 欲する-IMPF

「学校を (10 グレードまで) 終えたい。」

A: timirt wurs-ara, abz maak'-anda?

学校 終わる-COORD 何 なる-INT

「学校を終えたら、何になる？」

D: poolisinet.

警察職

「警官職。」

A: oots-anda?

働く-INT

「働くのか？」

D: aa.

AFF

「うん。」

A: ishi mel-ish?

O.K. 他-TOP

「O.K. 他は？」

(説明) アムハラ語əšši が現れている。-ish は話題標示マーカである。

D: maak'ara, ma ta gad betesebants madd-a aradda'-a,
後 さらに 1SG.GEN 村 家族 助ける-COORD 助ける-COORD
taan-i dicchi yelts-ino-nts int-ana aradda'a wot-and-ab
1SG-NOM 大きく 育つ-REL.PF-PL 彼ら-ACC 助け する-INF-DAT

dass gey-ire.

うれしく 言う-IMPF

「後は、さらにぼくの村で家族を助けて、ぼくは成長する彼らの助けをすることをうれしく思う。」

(説明) ma はアムハラ語の *dägmo* に相当。betesebants はアムハラ語 *betä säb* からの借用語で、複数標示-ants はバスケット語の形態法に従う。バスケット語の「家族」は *igina* あるいは *aalasa* がある。バスケット語で *madda(re)* 「助ける」と言った後にもう1回アムハラ語 *rädäda* から作られた *aradda'a* を付けている。*dicchi-yeltsire* は「大きく育つ」の意で、複数接辞が付いて「大きく育った(複数)彼らを」と、3人称代名詞 *inta* に係っている。3人称複数代名詞が名詞として機能していることが窺われる。再度 *aradda'a* が現れているが、これは語幹による名詞化で「助け」の意。それに *wotire* 「する」が付いて動詞になる。

A: oots-are genta?!

働く 言う.CONF

「働くと言うのか?!」

(説明) *genta* はアムハラ語の *malät näw* に相当する表現で、*geyire* 「言う」から作られた表現である。疑問あるいは確認の意を表す。前の動詞は未完了形になる。(例) *muyare genta* 「食べると言うのか?!」

D: aa.

AFF

「うん。」

A: Getach-i, neen-i poolisinet ekka-bda gey-in, wozart-anda?

ゲタッチヨ-NOM 2SG-NOM 警察職 取る-NEG 言う-ACNV どうする-INT
「ゲタッチヨおまえは、警官職を取れなかったら、どうしたい?」

(説明) *bda* は前の動詞を否定し、*geyire* 「言う」と対応して条件節を構成し、「～なかったら」の意。*-n* は前と後で主語が交替する機能であるから、前文の *geyire* の主語は節全体である。

C: int-i ekka-bda gey-iko, gabarinet gel-anda.

3PL-ACC 取る-NEG 言う-IMPF. 仮定 農民職 入る-INT

「警察職を取れない場合は、農民職に入るよ。」

(説明) *-iko* は未完了の仮定。*ekkabda geyiko* は直訳ならば「取らないと言うなら」の意となる。

A: gabarinet oots-anda?

農民職 働く -INT
「農民職を働くつもりか。」

C: aa.

AFF
「うん。」

A: oots-i, macch' ekk-and be?

働く -CNV 嫁 取る -INF CONT
「働いて、嫁を取るのか？」

(説明) 2つのイベントの時間的継起なので、ootsaraが相応しい形である。

C: aa, macch' ekk-are. wohi taan-i ekk-anda. geyi-iko, lukk-anda.

AFF 嫁 取る -IMPF 将来 ISG-NOM 取る -INT 入る -假定 行く -INT
「うん、嫁を取る。将来ぼくは警察職を取りたい。入れば、行くつもりだ。」

A: lukk-ar-a?

行く -IMPF-INTRO
「行くのか？」

C: aa.

AFF
「うん。」

A: Samson, neen-i poolisinet ekka-bda geyi-ko, wozart-anda?

サムソン おまえ -NOM 警察職 取る -NEG 言う -COND.IMPF どうする -INT
「サムソン、おまえは警察職を取れない場合は、どうしたい？」

C: ekka-bda geyi-ko ta aayi-bar-ontsi-bara do'-a, macch'

取る -NEG 言う -COND.IMPF 私の 母 -INSTR-PL-INSTR 暮らす -COORD 嫁

ekk-a, poolisinet ekka-bda geyi-ko, gabarititts oots-anda.

取る -COORD 警察職 取る -NEG 言う -COND.IMPF 農民職 働く -INT

「取れない場合は、母と共に家族と暮らし、嫁を取り、警官職に入れない場合は、農民職で働くよ。」

(説明) aayi-bar-ontsi-bara は、「母と一緒に」が複数形になって家族の意。その家族がさらに2回目の具格を取っている。do'a, ekka はそれぞれ do'ara, ekkara の最後の ra が音脱落した形で、等位接続を表す。

A: taan-i astamari maak'-and koy-are. astamari maak'-a,
 1SG-NOM 先生 なる-INF 欲する-IMPF 先生 なる-COORD
tamar-isa damooz muy-i kedda, ta aayi-bar aradda'a.
 教える-名詞 給料 食べる-CNV 中で 私の 母-INSTR 助ける-COORD
ta gadin laam-i kedda, ta gadin dicch-anfen
 1SG.GEN 村 変える-CNV 中で 1SG.GEN 村 大きくする-ESS
koy-are.

欲する-IMPF

「ぼくは先生になりたい。先生になって、教えることでお金を儲けながら、
 ぼくの母さんを助けて、ぼくの村を変えながら、ぼくの村を大きく（発
 展）するようにしたい。」

（説明） tamar-isa は教えるの動名詞形。アムハラ語 *dämoz* からの借用語が
 用いられ、「給料を食べる」で「金を儲ける」の意味になる。gadin の-in（女
 性名詞）は村が小さいことを表している。gaddin と重子音で発音するはず
 であるが、gaddire 「置く」と同音衝突するため、gadin と発音する。

3.3 食べ物

A: ne abz abz muy-and koy-ar-a?
 おまえ 何 何 食べる-INF 欲する-IMPF-INTRO
 「おまえは何と何を食べたい？」

B: taan-i be koshi baz aish-bara muy-a, koshi taan-i
 私-NOM CONT 良い もの 肉-INSTR 食べる-COORD 良い 私-NOM
endersiz baz muy-a yist-and koy-are.

太る もの 食べる-こと する-INF 欲する-IMPF

「ぼくはね、何かよいものを肉と一緒に食べて、良い、そして太る食事を
 したい。」

（説明） be は対照のマーカで、他の人と違って「私は」の意で、アムハ
 ラ語の *änen näw* に相当する。2つ目の koshi の位置は taani の後ろが自然で
 ある。yistire は wotire 「する (*adärrägä*)」と同じ用法で、最近使われるよう
 になった動詞である。（例） taani lukka yeya yistare. 「私は行き来する。」、
 taani surk'a denda yistare/wotare. 「私は寝起きする。」ここでは *muya yistire/wotire*
 で「食事をやる」の意。enders は形容詞「太い」で、iz は動詞接尾辞で「太
 る」となり baz 「もの」を修飾する。

A: isshi mela. Tamu, ne abz abz muy-and koy-ar-a?

O.K. 他 タム 2SG 何 何 食べる-INF 欲する-IMP-F-INTRO
 「O.K. 他。タム、おまえは何と何が食べたい？」

(説明) əšši はアムハラ語である。

C: t'uncha-nna hayl immega iyi-fen-o-da mond-abo koy-are.

筋肉-と 力 与えるもの それ-ESS-REL-DEF 食べる-DAT 欲する-IMP-F

mints-iza-da ishit ishit frafri-bara maak'-ino iyi-fen-o-da

強い-REL-IMP-F-DEF 少し 少し 果物-INSTR なる-REL-PF それ-ESS-REL-PF-DEF
 「力を与える、そのようなものを、食べたい。少しの果物で強くなる、そのようなものを (食べたい)。」

(説明) t'uncha と hayl 及び、それらを繋ぐ接続詞 {-nna} もアムハラ語である。immega はマロ語などゴファ語系の語形で、バスケット語であれば immizada となる。mondabo は muyandabo の短縮形である。iyifenoda は「そのようなもの」の意。ishit frafri-bara mints-iza-da maak'-inoda iyifenoda の順が文法的に自然である。

A: Getach-ish?

ゲタッチヨ-TOP
 「ゲタッチヨは？」

C: endersiz wolk'i imm-i, gibbidi mah-iza-ad-ani manga,

太る 力 与える-CNV でかい なる-REL-IMP-F-DEF-ACC マンゴ

papaya, Haa-d-inti fiish-i muy-and koy-are.

パパイヤ これ-DEF-PL 食べ物-ACC 食べる-INF 欲する-IMP-F

「太ることができて力を与えて、大きなもの、マンゴ、パパイヤ、こういう食べ物を食べたい。」

(説明) wolk'i はバスケット語の「力」の意。gibbidi はアムハラ語の gäbbädä からの借用語で「でかい (gəzuf)」の意。バスケット語は dammi である。

A: sharbashar-ish?

粗末な食べ物-TOP
 「粗末な食べ物は？」

(説明) sharbashare 「粗末な食べ物を食べる」は、アムハラ語 (ašär bašär) からの借用語で、力が出ない食べ物 (偽バナナやボエなど) を指す。なおボエは偽バナナに似た食物で、エチオピアの田舎でよく食される粗末な食べ物。

C: mo-ore.

食べる-IMPF
「食べる。」

(説明) moore は moy-are の変異形。ここでは便宜的に mo-ore と形態素分析しておく。

A: uutsi boyini mo-or-a?

偽バナナ ボエ 食べる-IMPF-INTRO
「偽バナナ、ボエを食べる？」

C: mo-ore. woytso fiishi moo-re.

食べる-IMPF すべて 食べ物 食べる-IMPF
「食べる。(偽バナナもボエも) 全部の食べ物を食べる。」

A: ne uutsi boyini muy-ar-a?

2SG 偽バナナ ボエ 食べる-IMPF-INTRO
「おまえは偽バナナとボエを食べるのか？」

C: taan-i boyini dukk-iza muy-abase.

1SG-NOM ボエ 辛い-REL.IMPF 食べる-NEG.IMPF
「ぼくはボエの辛い所は食べない。」

(説明) dukkire は「撃つ」の意であるが、ここでは「体を突き刺す」という所から「辛い」の意で用いられている。

A: dukka-bas-o muy-a, uutsi mo-ore.

辛い-NEG-REL.PF 食べる-COORD 偽バナナ 食べる-IMPF
「辛くないのは食べる、(だから) 偽バナナは食べる。」

(説明) dukkabaso は「辛くないものを」の意。

C: maats'i-bar ushk-a, hayl-ki muk'ati-ki

ミルク-INSTR 飲む-COORD 力-と 熱-と

imm-iza-d-ani muy-and koy-a yist-are.

与える-REL.IMPF-DEF-ACC 食べる-INF 欲すること する-IMPF
「ミルクで飲んで、力と熱を与えるものを食べたいかな。」

(説明) maats'i-bara に bara が付いているのは「ミルクで食べ物を食べる」の意。muk'ati はアムハラ語の muqät からの借用語。koya yistire で丁寧形となり「～したいのです」の意。

A: ubbi koy-are genta?

全部 欲する-IMPF 言う .INTRO
「全部ほしいというのか？」

C: aa.

AFF
「うん。」

A: shaasha-ri?

コロ-も
「コロも？」

(説明) コロは焼いた豆のことで、ソルガム、豆、トウモロコシ、麦など
様々な種類がある。

C: aa.

AFF
「うん。」

A: uutsa-ri? orch'a-ri? boyina-ri? uufa-ri?

偽バナナ-も キャベツ入り偽バナナ-も ボエ-も インジェラ-も
「偽バナナも？キャベツ入り偽バナナも？ボエも？インジェラも？」

C: aa.

AFF
「うん。」

A: assh-iz baz bayy-a?

残る-REL.IMPF もの ない-INTRO
「残るものはないのか？」

C: assh-iz baz wodhe. iit baz sagari. ishit abask

残る-REL.IMPF もの ある 悪い もの うんこ 少し 何か

moo-base. fiishigal maddab-int-iza mutti moo-re.

食べる-NEG 食べ物 分類する-PASS-REL.IMPF だけ 食べる-IMPF

「残るものはある。悪いもの、うんこ。何か少しは食べない。食べ物に分類されるものだけを食べる。」

(説明) 「うんこ」はバスケット語で shiija、アムハラ語で sägära, ar, aynä mädər
の3つの言い方がある。maddabintire は「分類する」の受身形で、ここでは
さらに名詞化されている。

4 終わりに

以上3つの対話テキストを分析した結果、本文中で指摘した言語変容に関わる特徴に関して、以下のような項目に分類できるであろう。数字が大きくなるに従って、バスケット語の文法、意味、語彙に言語変容を引き起こしやすく、4以降は言語接触がその要因である。

1. **短縮**：異形態として定着した短縮形。文法機能を損なうことはない。

(例) taani > ta, timirtaalitti > timirtaali, muyare > moore

2. **音脱落**：語末音節や語末母音が脱落し、機能形態素の一部または全部が欠落して、時には文法機能が不明瞭になっている。

(例) lukkara > lukka, tamarara > tamarar, gidakkaya > gidakka

3. **誤用・転用**：本来の用法から逸脱した使われ方をしている。

(例) ekkara > ekki, abzab > anti, yeyiz sanyi > giab sanyi

4. **借用語**：バスケット語の語彙の代わりに、アムハラ語からの借用語が選択されている。

(例) kallire > takatattalire, dammi > gibbidi, maddire > aradda'ire

5. **コード切替1**：単語レベルでコード切替が起こっている。

(例) aafin > sint, atto > bakk'a, ero > isshi, geesh > guur

6. **コード切替2**：複合語あるいは句レベルでコード切替が起こっている。

(例) yebet sira, aalasa > betesebants, immizada > immega

また今までの研究では拾いきれなかった表現が数多く見つかったことも本研究のアプローチの成果である。感嘆詞 (wuu, wu'a)、文と文を繋ぐ際に現れる形態素 (ma, Hana, pish)、情報構造に関する形態素 (ish, be)、モダリティに関する形態素 (dor, sho, baya, ka, genta) など、例文単位ではどうしても取り出しにくいものである。対話の中で使われているこれらの形態素は、コミュニケーションにとって必須の要素である。彼らはまたこれらの形態素がアムハラ語の何に相当するかをよく熟知している。日常的なアムハラ語との二言語併用（あるいは多言語併用）を円滑に行う術を身につけているのである。逆に彼らがアムハラ語で話す場面で、これらの形態素が現れるかどうか興味深いので、今後の研究課題としたい。

一方また、wotire（あるいは yistire）という動詞の新しい用法にも注目すべきである。本来 wotire は「まさに～しようとする」というアспектに関わる動詞であるが、動詞語幹 + wotire / yistire で「する」という意味に変わり、動詞派生接辞の機能をしている。これは例えば日本語の「する」による造語法に似ており、強力な生産性を持っていると思われ、言語変容の観点から今後も注意深

く観察する必要があるであろう。

以上、対話テキストの収集および分析を今後も続けることで、少数言語の動態面の解明に繋がることが予見できる。

【参照文献】

- Bender, M.L., J.D.Bowen, R.L.Cooper and C.A.Ferguson (eds.) (1976) *Language in Ethiopia*. London: Oxford University Press.
- Fleming, H.C. and M.L.Bender (1976) 'Cushitic and Omotic,' In: M.L.Bender, J.D.Bowen, R.L.Cooper and C.A.Ferguson (eds.), 34-53.
- 乾 秀行 (2002) 「バスケット語の語彙」『一般言語学論叢』4.5 合併号, 筑波一般言語学研究会, 11-33.
- 乾 秀行 (2005) 「バスケット語の文法概観」柘植洋一 (編) 『多言語国家エチオピアにおける少数言語の記述、ならびに言語接触に関する調査研究 (*Cushitic-Omotic Studies 2004*)』金沢大学, 1-40.
- 乾 秀行 (2006) 「バスケット語の文法概観Ⅱ」乾秀行 (編) 『オモ・クシ系少数言語の調査研究および地理情報システムを用いたデータベース構築 (*Cushitic-Omotic Studies 2006*)』山口大学, 15-60.
- 乾 秀行 (2008) 「バスケット語動詞300」乾秀行 (編) 『オモ・クシ系少数言語の調査研究および地理情報システムを用いたデータベース構築 (*Cushitic-Omotic Studies 2007*)』山口大学, 31-78.
- 乾 秀行 (2009) 「バスケット語動詞500」乾秀行 (編) 『オモ・クシ系少数言語の調査研究および地理情報システムを用いたデータベース構築 (*Cushitic-Omotic Studies 2008*)』山口大学, 11-93.
- 乾 秀行 (2010) 「バスケット語形容詞200」乾秀行 (編) 『オモ・クシ系少数言語の調査研究および地理情報システムを用いたデータベース構築 (*Cushitic-Omotic Studies 2009*)』山口大学, 21-57.
- 乾 秀行 (2011) 「バスケット語名詞500」乾秀行 (編) 『オモ・クシ系少数言語の調査研究および地理情報システムを用いたデータベース構築 (*Cushitic-Omotic Studies 2010*)』山口大学, 9-30.
- 乾 秀行 (2012) 「エチオピア言語調査用基本動詞例文集」*Studies in Ethiopian Languages*, 1, 48-211.